

例会記事

六月例会 平成元年六月十七日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

緒方富雄先生追悼例会(蘭学資料研究会と合同で行われた)

一 蘭学研究史上における緒方富雄先生の功績 杉本 勲

二 血清学者としての緒方富雄先生

— 免疫概念の歴史的な捉えに¹⁾く²⁾ (clarivance)

について—

川喜田愛郎

七月例会 平成元年七月十五日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 フランス革命と医学

大村 敏郎

二 人工授精の論証と親子論についての私見

宮田十寸穂

九月例会 平成元年九月十六日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 エディンバラ王立救貧院病院とアグネス・ベッチ

平尾真智子

二 三條天皇ノ御病状ニ就イテ

稲垣 直

例会抄録

江戸幕府における鍼科と盲人

香取 俊光

鍼は江戸時代の重要な医療手段であり、盲人はこの時代の鍼の

発展に大きく関わっていた。しかし、現在までの鍼と盲人の研究は、そのほとんどが杉山檢校和一についてで終わっている。本稿は、この時代の鍼と盲人を明らかにする一段階として、江戸幕府における盲人が幕府にいかに関わっていたか検討する。

史料は、江戸幕府の正史『徳川実紀』・『続徳川実紀』、家臣の系図集『寛政重修諸家譜』、職員録『武鑑』を中心に、盲人関係の史料『久我家文書』・『当道大記録』などを使用した。その中から、幕府において鍼の施術をした者を網羅的に集めた。

まず江戸幕府の医療制度という点と、とくに呼び名がない。幕府のお抱えの医師は、『徳川実紀』などに頻繁にでてくる「医員」が総称と考えられ、奥医師・寄合医師・小普請医師などの身分を越えて呼ばれている。幕府内には、内科(本道)・外科・鍼科・小児科・眼科・口中科・産婦人科の医療七科目が置かれていた。制度は画一的に整備されたものではなく、必要に迫られてしだいに形作られたものである。また、この時代の医師は、試験制度で認められた者ではなく、病気を治せる実力・能力のある者が医師として認められた。医師は、(一)自家が代々医師であった、(二)著名な医家に学んだ、(三)自らの経験で病気を治せるようになった等の契機で医師となった。幕府も、身分や地域にかかわらず実用的な医師を医員に登用している。この事は、盲人であっても実用に適えば医員となりえた事を示す。たとえば、杉島檢校不一は、「鍼治を善くする」により桜田の館で家宣に仕えていた。鳥崎檢校登榮^{いさむね}も、「針治を善くする」により西城奥医に準ぜられた。芦原檢校英俊一は、松代侯に仕え、尾張・紀伊・徳川儀同・松平兵部や

その他の諸侯に召された。この三人の盲人は、それぞれのち医員に登用された者である。このように当時の医療は、たとえ盲人でも鍼の技術を身につけ、病気を治せる実力・能力が備わったとき幕府の医員に登用される可能性を持っていたのである。

次に幕府内での鍼の施術者について見てみよう。幕府内では、三四家が鍼の施術をしていた事が判明した。その内訳を見ると、幕府の鍼科の医員は次の二八家であった。

坂氏本家・坂氏分家・藤木十左衛門某・山本家・佐田氏本家・佐田氏分家・増田家・須磨家・上田家・岡本壽仙祐品・山崎家・栗本家（杉山檢校和一の弟子）・吉田家・島田家・畠山家・前川家・小崎三省敬直・茂木家（以上一八家）

*盲人（一〇家）：三島檢校安一・杉岡檢校五一・杉島檢校不二・杉枝家・島浦（和田）家・板花檢校喜津一・島崎家・石坂家・芦原檢校英俊一・平塚檢校東栄一

医員以外で鍼の施術をしたのは次の六家であった。

*盲人：山川檢校城管貞久・杉山檢校和一

*外科の医員：熊谷（曾谷）伯安宗祐

*御目見医師（町医で將軍に拜謁できたもの）：村井閑節某・

細見幽悦某

*藩医：吉田一貞某 *：（姓名の者は一代限り鍼の施術をした）

これから考えると、盲人は医員二八家の内一〇家を占め、栗本家は杉山檢校の弟子であったなど、幕府における盲人は重要な役割を果たしていた。

本稿のまとめとして時代の流れから鍼を検討しておこう。鍼は

緊急医療でないために、戦乱の時代には寺社や京都の医師によって育まれ、あまり重要視されていなかった。幕府初期において、外科医熊谷伯安宗祐は徳川家康の腫瘍に対し薬と鍼を使用した。

幕府に鍼専門の医員が登場したのは、大阪冬・夏の陣を終えて幕府の礎も定まった三代將軍家光の時代、寛永五年（一六二八）六月の坂寿三幽玄であった。平和の訪れが広く鍼の需要を増やし、市井の医師や盲人が鍼医として存在できるようになっていた。江戸時代前半の盲人の山川・杉山も鍼治療にあたったが、医員としては登用されなかった。盲人が幕府の医師に登用されるようになったのは、杉山の弟子三島・杉岡からであった。その後、杉山の弟子が続々医員に登用されていった。この事は、盲人の鍼技術の熟成期が杉山の頃で、しかも鍼教育が大きな拡がりを持ち、盲人が福祉政策からではなく鍼術の能力を評価されることであったといえる。

（平成元年四月例会）

フランス革命と医学

大村 敏郎

カトルズ・ジュイエ（七月十四日）という日には祭りと流血と改革の三つのイメージが重なっている。今年二〇〇〇年目を迎えたフランス革命記念日の次の日にこの例会がもたれた。

大臣ジャック・ネッケル (Jacques Necker, 1732~1804) が罷免されたことに端を発して革命の火の手が上がった。ネッケル病院